

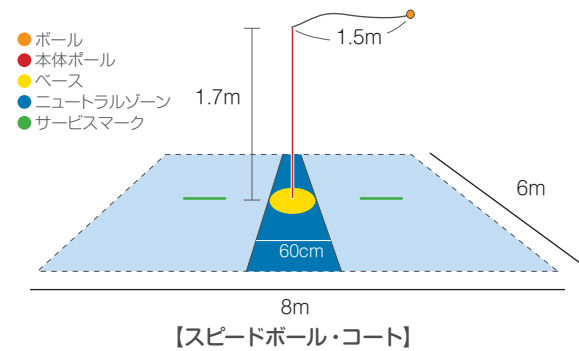
# スピードボールは、シンプルで楽しい、誰でもできる生涯スポーツ。

スピードボールは1961年に、テニスのウォーミングアップなど屋内練習の一環としてエジプトで発祥したラケット競技です。いつでも、どこでも、誰にでも楽しくできる生涯スポーツです(SPORT FOR ALL)。

高さ1.7mの金属製ボールの先端に、長さ1.5mのナイロンコードで取り付けられたゴム製のボールを、プラスチック製のラケットで打ち合います。ルールが極めて簡単で、適度な運動量があり、子供から高齢者まで誰でも楽しめます。バランス感覚、動体視力、俊敏性、瞬発力、筋持久力、筋力バランスが得られるほか、体力づくり、運動不足の解消、そしてリハビリテーションを目的とした運動としても最適です。

競技スポーツとしての魅力もあり国際大会、国内大会が開催されています。上級者になると打ち合うボールの速度が時速160キロに達する、その名の通りスピードあるエキサイティングな競技です。

公共施設の健康運動教室、民間スポーツクラブのスクール事業、学校体育の選択科目授業などに採用され、国内各地で愛好者が増えています。また障がい者スポーツ、高齢者・介護予防運動としての位置付けも確立され、公共施設(障がい者福祉センターや市民体育館等)でも教室が開催されるなど、福祉事業としても普及・認知されています。



## ○競技種目について

競技種目は、個人の打数記録を競うスーパーソロ、対戦形式のシングルス、ダブルス、ソコの種目を4人の選手で引き継ぐミックスリレーというチーム戦の4種目があります。クラスは一般男女、ジュニア(小学生/中学～高校生)一般男女、マスターズ(40歳以上)男女の8区分に分かれています。



スーパーソロ

右手、左手、両手フォア、両手バックを各1分間、合計4分間の総合打数を競います。ストロークの正確性と速さが求められます。世界大会レベルのトップ選手は合計が550打数に達します。



シングルス

交互にサーブを行い、相手の打ったボールを反対方向へ打ち返すシングルゲームです。3ゲームマッチ制で行います。1ゲーム10点先取とし、2ゲーム先取をもって勝ちとなります。男子決勝は5ゲームマッチ制とし、3ゲーム先取したほうが勝ちとなります。



ダブルス

2人組で試合を行います。プレーヤーは交互に入れ替わってボールを打たなければなりません。それ以外のルールはシングルス戦と同様に行われます。位置取りやコースの打ち分けなど戦略を問われます。国際大会では男子、女子、男女ミックスの3区分で競技が行われます。



ミックスリレー

男女2人ずつの4人1組でチームを組みます。各自がソコの各種目を30秒間担当して、合計2分間での総合打数を競います。国際大会で国別対抗戦として行われる種目で、チームワークと全員の競技レベルが勝敗を左右します。

## 沿革

## History

- 1985年08月 神戸市にて開催された夏季ユニバーシアードの国際交流イベントにて、スピードボールが日本に紹介される。
- 1987年10月 五輪レスリング金メダリスト菅原正三氏と財団法人体力づくり指導協会を中心として、日本スピードボール協会を設立。
- 1992年10月 国内初の公式競技大会「第1回全日本スピードボール選手権大会」を開催する。
- 1996年10月 スピードボール世界大会へ選手派遣開始。
- 1997年05月 2つ目の公式競技大会となる「第1回スピードボール全国選抜大会」を開催。
- 1998年12月 スピードボール通信発行開始。
- 1999年09月 障がい者福祉センターへのスピードボール普及活動を開始。
- 2001年03月 日本スピードボール協会の公式ウェブサイトを開設。
- 2001年10月 日本代表選手をシドニー(オーストラリア)へ派遣、日本人学校にて普及教室イベント開催。
- 2004年09月 日本スピードボール選手権においてジュニア部門を制定し、ジュニア競技を開始。
- 2006年10月 日本初開催となる「FISB第20回世界スピードボール選手権大会」をさいたま市(さいたま市記念総合体育館)にて開催。
- 2009年01月 3つ目の公式競技大会「第1回全日本スピードボールチーム対抗競技大会」を開催。
- 2009年10月 4つ目の公式競技大会「全日本ジュニアスピードボール選手権大会・全日本マスターズスピードボール選手権大会」を開催。
- 2009年10月 国際交流基金市民青少年交流助成プログラム対象事業「第23回世界スピードボール選手権大会」を実施。
- 2010年02月 「第1回アジアスピードボール選手権大会」へ選手派遣。
- 2010年10月 日本スポーツ振興センタースポーツ基金助成事業「FISB第24回世界スピードボール選手権大会」をつくば市(つくばカピオ)にて開催。
- 2012年06月 総合型地域スポーツクラブ、カルチャー教室でのスピードボール教室開講ならびに講師派遣を開始。



**JAPAN SPEEDBALL FEDERATION**



**日本スピードボール協会**

千葉県柏市柏269-1-217 〒277-0005  
TEL (04)7132-8177 FAX (04)7132-8176

**JAPAN SPEEDBALL FEDERATION**

#217, 269-1, Kashiwa, Kashiwa, Chiba, Japan, ZIP270-0005  
Phone 81-4-7132-8177 Fax 81-4-7132-8176  
URL: <http://www.speedball.jp/>

**JAPAN SPEEDBALL FEDERATION**



# 新しい可能性を生み出す スポーツの魅力を伝えたい



## 活動の目的及び業務

日本スピードボール協会は、国民に対して、スピードボールに関する事業を行い、国民の福祉、健康及び体力づくり並びにスポーツイベントを通じた国際交流に寄与することを目的としています。

我々は、わが国におけるスピードボールを統括し、代表する団体としてスピードボールの普及振興を図り、もって国民の心身の健全な発展に寄与することを目的としています。

私達は上記の目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) スピードボールの普及振興に関する基本方針を確立すること
- (2) スピードボールの普及、振興並びに指導を行なうこと
- (3) スピードボール選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図ること
- (4) 全日本選手権及びその他の公式競技会を開催すること
- (5) 講習会の開催及び公認指導者・審判員の養成と資格認定を行なうこと
- (6) 国際競技大会への日本代表選手の選考及び役員への派遣
- (7) 競技の諸規則・諸規定の制定及び競技用具の審査と検定
- (8) ウェブサイト運営、刊行物の発行並びに資料収集と情報発信
- (9) 本条に定める事業の遂行に必要な財源調達を図るための事業
- (10) その他、この組織の目的を達成するために必要な事業



## 日本スピードボール協会

- ◆設立年月日 1987年10月
- ◆所在地 千葉県松戸市柏269-1-217  
TEL. 04-7132-8177  
<http://www.speedball.jp/>

私達日本スピードボール協会は、国民の健康増進、青少年の育成、障がい者への福祉拡充を、誰でも簡単にできて、楽しく、競技性にも優れた「スピードボール」という生涯スポーツを通じて実現したいと考えています。そのためスピードボール競技の普及活動、日本選手権や世界選手権大会の実施、障がい者施設等への指導や用具等の寄付活動、教室・講習会開催等の活動を行っています。

当協会では、公共の福祉に奉仕し、国、地方自治体、民間スポーツ・福祉施設、関係諸団体等のみなさまと一緒に、新しい可能性を生み出すスポーツの魅力を伝えていきたいと考えております。

## JAPAN SPEEDBALL FEDERATION

Support & Coaching  
for Official Speedball Club (Players & Instructors)



## 競技

### 公式競技大会の企画・運営・開催

全日本スピードボール選手権など公式競技会を開催し、スピードボールの普及を推進しています。競技会は、個人記録競技のスーパーソロ、対戦競技のシングルス、ダブルスなど各種目に分かれ、それぞれ力、技、スピード、戦略を競います。

### 審判員の養成、派遣

審判員の養成、審判技術の向上、審判員資格取得講習会の開催、各種大会への審判員派遣を行っています。審判員は審判する大会レベルに応じて、Ⅱ種・Ⅰ種・国際審判員の3種に分かれています。

### 世界大会への選手派遣、国際交流

世界大会はエジプト、フランス、日本を中心に毎年開催されており、当協会は選手団を派遣しています。日本代表は確固たる地位を築いています。



20th FISB WORLD SPEEDBALL CHAMPIONSHIP 2006  
第20回スピードボール世界大会・さいたま市記念総合体育館



審判員講習会の開催

## スクール・指導

### スクール(教室)やクラブの公認・支援

指導教室、スクール、クラブを競技団体として公認し、スピードボールの競技者拡大、大会への参加を推進しています。また指導教室・スクール事業の企画、運営受託、各種支援を行っています。

### 指導員の養成(講習会)、派遣

指導員を養成するため、講習会(資格取得・更新)を開催しています。受講者は正式な指導員として認定されます。初心者や児童への初歩的な指導を行う普及指導員、公式競技会への出場や、成績向上を目指す選手を指導する準指導員、さらに高度な実践指導を行う正指導員、世界大会出場レベルの選手を指導育成するコーチの4種に分かれています。

### 技術認定制度

技術の習得と継続的な向上を目的として、スピードボール競技の技術力を評価する技術認定制度を制定しています。スーパーソロの打数など技術レベルに応じた区分を元に評価を行い、選手の技術力を認定します。

### 強化選手/ジュニア選手の育成

世界大会で活躍できるトップレベルの選手を育成するため、講習会や強化合宿の実施、各種支援を行っています。また継続的な技術レベルの向上を目指し、ジュニア選手の強化・育成にも力を注いでいます。



学校での普及活動・体験教室の開催

## 普及・福祉

### 体験教室・イベントの企画・運営・開催

体験教室を開催します。比較的手軽な体験イベントから知識/技能をマスターする充実したプログラムまで、ご希望の時間や内容にあわせて開催しています。指導員の派遣、用具の手配等は当協会が窓口となって準備します。スポーツ・福祉イベント等のアトラクションとして数々の開催実績があります。

### 障がい者・高齢者への福祉支援

障がい者や高齢者にもできるスポーツとして注目を集めています。当協会ではスポーツを通じた福祉の拡充を実践するため、障がい者福祉センターへ、スピードボール用具の寄付や教室への指導員派遣、指導受託を積極的に行っています。高齢者の介護予防の一環として、各種運動教室への導入支援も行っています。



千葉県我孫子市「福祉まつり」での体験教室

### 学校教育(体育授業/クラブ活動)への導入

誰でも簡単に参加できる楽しいスポーツとして、小・中学校から高等学校、大学まで、体育授業の選択科目やクラブ活動として採用されています。性別・年齢を問わず、競技性やレクリエーション性、健康増進などの面で優れた長期プログラムとして、評価も高まっています。

### 指導員の育成・派遣、活動支援

指導員の育成および派遣、活動支援を行っています。指導員はスピードボール普及のスペシャリストとして、体験教室や福祉活動施設、学校教育などへの導入を推進しています。